

## 「Converter」

静岡県立科学技術高等学校 4年  
漆畑美広 (19 歳)

今、私は定時制の4年生です。「そんなふうには見えない！」とよく言われますが、中学の頃は、宿題はやらない、授業も真面目に受けない、挙句の果てに揉め事を起こす不良のような生活を送っていました。卒業時に先生から「高校に行ったら真面目にやっつけていけよ。お前ならやれる。」と声をかけていただいたものの、「真面目にやるって言ったって、何をやりゃあいいんだよ。」とっていました。

定時制に入学してすぐ、部活動紹介がありました。多くの部活のなかで、一人も部員がいない部活がありました。電気工事受験部です。電気工事に特に興味があったわけではありません。「部員がいないなら、揉めることもないし、真面目になるなら、資格をとればいいんじゃないか？」そんな発想で入部を決めました。

入部届を出しに職員室へ行くと、顧問の菊田先生が出てきました。髪はもじかもじまパーマ、黒のTシャツに黒の長ズボン、そして顔が怖い。教師とは思えない見た目の人でした。「こんな人に教わるの？ ぱっと見ヤクザじゃん。」と思いました。丁寧に挨拶をして、不安とともに、その日は帰りました。

翌日から本格的に部活動が始まりました。

「まず、オームの法則からやっつけていくからな！」先生はとてもしりきって、電気の基本から教えてくれました。私は計算問題が苦手なのですが、先生は毎回つきっきりで、わかるまで教えてくれました。叱られることもありましたが、先生は、「お前はだめだな」というような否定的な言葉は、一度も口にしませんでした。

ある程度の知識がついてきた頃、先生が倒れて入院してしまいました。

その頃、私は「だるい、疲れた」という気持ちに負けそうになっていました。先生が入院してしまい、「部活をやめるなら今だ」という考えも頭をよぎりました。

しかし、「先生がいない今、俺がしっかりやらなきゃいけない！」と思い直し、復習に取り組みました。

半年後、先生が戻ってきました。坊主になっていました。

「おまえとお揃いの頭になっちゃったな。ハハハ！」と笑う先生は、今思えば、なにかを悟っていたような表情でした。先生の体調を考慮して、部活は午後4時開始になりました。

毎日、筆記や実技を教えてもらったかいあって、第二種電気工事士の資格を取ることができました。先生に報告とお礼を言いに行くと、「漆畑、一種も取りたいか？」と聞かれました。「この人にならついていける。俺を認めてくれたんだから、それに応えなきゃならない！」と思い、「やります。」と即答しました。すぐに翌日から、第一種に向けての活動が始まりました。

ですが、先生との時間は長くは続きませんでした。三年生になる頃、菊田先生は、病状が悪化して、退職することになったのです。

しかし、私は先生と追いかけた合格への道を諦めたくありませんでした。午後

1時から学校に来て自習して、昔ならやりもしなかった自宅での学習にも励みました。そして筆記試験合格までたどり着きました。

その一週間後、菊田先生が学校にいらっしゃいました。

「漆畑、ひさしぶりだな。筆記、合格したんだってな。何点ぐらい取れたんだ？」

「72点ぐらいですかね…」

「実技も合格するといいな！」

「がんばります！」

と、久しぶりに言葉を交わしました。先生は意外と元気そうで、私は気持ちも新たに実技の練習に励みました。

12月の実技試験ではすべてを出しきりました。一月に届いた結果通知には「合格」の文字が記されていました。

「やったー！」思わず、喜びの声が出ました。菊田先生に近いうちに報告しようと思いましたが、それはかないませんでした。

1月21日、学校へ行くと、担任の先生から菊田先生が亡くなったと知らされました。頭が真っ白になりました。

お通夜に参列させてもらうことになり、棺の中の先生を見ました。げっそりとやせ細り、パーマでいかつい、あの頃の先生とは、別人のような姿でした。自然と涙がこぼれ落ちました。先生との思い出が、何度も何度も頭の中をめぐりました。同時に悔しい気持ちもこみ上げてきました。「なんで最後に報告できなかったんだよ！『ありがとう』と『さようなら』くらい言わせてくれよ！早すぎんだよ。」という気持ちでした。しばらくは先生の姿ばかり思い出して、何も手につきませんでした。

三月の離任式で、離任する林先生が声をかけてくださいました。林先生は、菊田先生がいない間、部活動を支えてくれた先生です。

「漆畑君は、努力して資格を取ったんだよ。真面目に頑張ってきたんだよ。」

『真面目』。その言葉を聞いて、入学した頃を思い出しました。あの頃、何となく使った言葉が、いつしか自分を変えてくれていたのでした。私はもっと多くの資格を取ってやろうと思いました。

その後、危険物乙4類を取り、今は、さらに二つの資格の勉強に取り組んでいます。喧嘩っ早く、粗暴だった私は、真面目になれたと思います。新たな目標は、「菊田先生のように、仕事に真剣に取り組む人になること」です。就職し、第一種電気主任技術者の資格を取り、電気工事の分野で菊田先生を超えたと思えるよう、仕事に取り組みたいと思います。そしていつか、職場の同僚や自分の子どもに電気工事について教えたい。菊田先生のように熱心に。

これからも菊田先生と一緒に夢を追いかけていきます。